

Title	古代埃及の年代に就て
Sub Title	
Author	恒松, 安夫(Tsunematsu, Yasuo)
Publisher	三田史学会
Publication year	1934
Jtitle	史学 Vol.13, No.1 (1934. 4) ,p.105- 118
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19340400-0105

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

古代埃及の年代に就て

恒松安夫

埃及學が今日の程度にまで發達を遂げるには幾多の學者の容易ならぬ努力が拂はれた。ナイル河兩岸の砂漠に底深く埋没して、幾千年を経たる古代埃及の遺物の發掘と云ひ、一度は完全に滅びて謎の文字と見做された埃及象形文字の解讀と云ひ、共に骸に命を蘇らしむるに齊しき難事業である。

シヤムポリオンが謎の象形文字に解讀の鍵を發見して以來、既に一世紀を閲し、爾來埃及學は急速なる進歩を遂げたとは云へ、勿論今日の状態は甚だ不満足なるものである。殊に史學的研究は考古學的研究に比して、資料の缺乏、資料の不完全等のために一層不満足なる状態に在ることは事實である。その顯著なる一例を擧ぐれば、紀年に就いて云ふことが出来る。今日歐米の諸學者が適用してゐる古代埃及の紀年は天文學的計算と推測の二方法によつて想定したものであつて、決して確定的なものではない。それがため、學者によつて著しく意見が相違し、共に斯學の權威たるロンドン大學のベトリイ Peirce 教授とシカゴ大學のブレステッド Breasted 教授との間には年代に關して約二倍の差を見るが如き有様で

ある。扱で今日適用されてゐる年代は如何なる根據に基いて算出せられたものであるかに就きて説明して見よう。右に述べたる如く、天文學的計算と推測の二方法によるのであるが、天文學的計算の基礎となるものは天狼星が日出と同時に登昇する天文學的現象である。埃及は土地が乾燥してゐるので、大氣が清澄で、肉眼を以つて夜間天體を觀測する上に最も好都合である。だから古代埃及人は天體に關する知識を割合に多く有したやうである。セテイ一世の墳墓の天井に描き遺された星圖を見るも、またテベのラメセス二世の寺院に遺された三個の星の圖を見るも、彼等の生活が天體の運行と相當重大なる關係を有したことが想像される。彼等は大陰曆を採用し、一ケ年を各々百二十日宛の三期に區分し、更に五日間の祭日をその末尾に附して、一ケ年を三百六十五日となした。而して右の三期は「洪水」「播種」「收穫」と名づけ、洪水期は夏至に最も近き新月の頃に始る夏期で播種期は冬期で、收穫期は春期に相當した。埃及人は第一期即ち洪水期の第一月を形式上年の始めと定め、實際には洪水期の始めに日出と共に天狼星が登昇する日に新年の祭を行つた。そして曆が用ゐられるやうになつてからは、この日を第一月の第一日となしたに相異なる。然し古代埃及人は一ケ年が正確に三百六十五日四分の一であつて、四年目毎に一日を加算すべきこと、即ち閏年の存在することを知らなかつたので、彼等の計算によると八年後には二日の差を生じて、一月一日は八年目の收穫期第四月第二十九日に相當することになる。それ故再び洪水期の第一月第一日に日出と同時に天狼星が登昇するには千四百六十一年後でなければなら

ぬことになる。何故なれば四年目に一日の差が一ケ年三百六十五日の差となるには千四百六十一年を経なければならぬからである。

若し吾々にして洪水期第一月（これをトートと名付けた）第一日に日出と同時に天狼星が登昇したといふ正確な記録を発見するならば、右に述べたるが如き理由よりして、古代埃及に於てトート一日に天狼星が日出と同時に登昇した年を算出することが出来るのである。而して幸にもこの天文學的現象に關する記録が二つ存在してゐる。紀元後三世紀のラテン文記者のセンソリヌス *Censorinus* なる者が紀元後一三九九年に天狼星が日出と同時に登昇したと記録してゐるのがその一つで、今一つはこの天文學的現象を紀念する言葉を持つアレキサンドリヤの一鑄貨が紀元後一四六年に發行されたことである。（この鑄貨は大英博物館に所藏されてゐる）。現今多くの學者が後者即ち紀元後一四六年を以つて天狼星の新周期の開始となすやうになつたのは、それを傍證する今一つの記録が存在するからである。即ちそれは紀元前一三八年のカノプス *Canopus* の律令中に天狼星の登昇が十一月第一日に起つたと記してあることである。これを土臺として計算すれば同様の天文學的現象はトート一日に起ることとなるのである。かくして天狼星の周期は吾々が古代埃及の年代を再建する上に非常に役立つのである。例へば、トートメス三世在位のある年の第十一月^{エピッイ}第二十八日に新年の祭が行はれたといふ記録によつて、その年が紀元前一五五〇年又は一五四六年であつたと計算されるが如きである。更に溯つて、アメンヘテプ一世の第九年^{エピッイ}十一月

九日に新年の祭が行はれたといふ記録によつて、それが一五五〇年又は一五四六年であつたといふことが計算されるのである。然しながら此等の二人の王の年代が單に天文學的計算によつてのみ確實に近いものであるとなすことは甚だしき冒險であるが、幸にしてそれに有利な傍證となるべき資料がある。一八八八年埃及のテル・エル・アマルナ Tell-el-Amarna から發見された、埃及第十八王朝の諸王とアツシリヤの諸王との間に交換された、楔形文字を刻んだ夥しき粘土板がそれである。而して此等の文書に於て見らるゝ埃及王と文通したアツシリヤ王の年代が、アツシリヤ側の年代學的考證によつて明かにされ、而もそれが天文學的計算によつて推定される埃及王の年代と略々一致するところを見れば、此等の天文學的計算は大體に於て正しきものと信せられるのである。^(五)

第二の推測法とは古人の遺した埃及諸王の系圖に現はれたる諸王の在位年數を加算し、一定の出發點から溯及してその總計によつて各王の在位系列の開始期日を推定する方法である。この方法は古人の遺した系圖が正確なものであれば最も信賴すべきものであるが、其等の系圖は悉く甚だ不完全なものである。然し不完全であるとは云へ、其等が全然何等の根據なしに書かれたものではなくして、何等かの根據に依つて書かれたものである以上、而して今日此等以外に古代埃及の年代を再建する資けとなるべき資料の存しない以上、或る程度に於て其等に典據せざるを得ない理である。

推測法の基礎となるべき記録的資料の重なるものを擧ぐれば次の如きものである。

(一) マネトオのエヂプティアカ。プトレミー・ソテルとプトレミー・二世フェラデルフォスの朝廷に在つたセベニトスのマネトオといふ埃及土著の僧侶が、國王プトレミー・フェラデルフォスの命によつて、象形文字を以つて記された資料に基いて、埃及の歴史を編纂したのが即ちエヂプティアカである。その年代は紀元前二七一年よりも以前ではないとされてゐる。このエヂプティアカは既に失はれて今日傳はらないが、ヂョセフス(紀元後三七年誕生)、セクスタス・ヂュリウス・アフリカヌス、ゲイザレイヤの僧正ユウセピウス、コンスタンチノーブルの教父の祕書をしてゐたジョージ等の記したものを通して、マネトオのエヂプティアカは斷片的に傳はつてゐるのである。其等の斷片を綜合して見るとエヂプティアカは三卷よりなり、著者は埃及歴代の諸王を三十一王朝に分類し、夫々の王朝の發生を示す地名例へばスイニス、メムフィス、エレファンチン、ヘラクレオポリス、テーベ等の名稱を各王朝に付し、且つ各王の在位年數等も記してゐたことが判明する。それ故今日その原文が傳はつて居れば、それは確かに埃及年代學の貴重なる資料となるに相違ないが、不幸にも後世エヂプティアカに典據して書いた前掲の人々は任意の取捨を加へ、甚しきは聖書に現はるゝ年代と一致させるため訂正を加へるが如き冒瀆を敢てしてゐるのである。それ故今日に於ては、右に掲げた後世の人々の著作を通して知らるゝ、マネトオの年代は甚しく價值なきものとなり、プレステッド教授の言葉を借りて云へば、「或る種の歴史に於て王朝年代の開始を極端に古い時代とすることは舊時代の埃及學者から繼承した

ことであつて、後世不注意且つ無定見に編輯されたマネトオの年代を土臺としたもので、その王朝の總數は此種の遺物の存する非常に多くの場合に於て同時代の資料によつて誤謬が立證され得るのである。^(六)」

(二) バレルモ石。バレルモの博物館に保存されてある閃綠岩に記刻された紀年の斷片がそれであつて、紀元前二六〇〇年頃に死んだ第五王朝のヌッセラ王の時代に造られたものと想像される。それは第一王朝直前にまでも溯り、初期の時代には各王の主要なる行績を略記し、後の時代に於ては歴代諸王の各年の行事を略記してゐる。それ故、この石が原型のまま傳はつてゐるならば、王朝開始からヌッセラ王に至るまでの完全なる資料となるのであるが、惜しい哉、現存のものは全體の僅か八分の一に過ぎない。

(三) 諸所の廟より發見された系圖板。其等はその時々々の國王が先祖を祀るため靈廟に奉安した系圖であつて、主として第十八王朝から第十九王朝に至るまでのものである。此等の系圖板は製作するに當つて勝手に取捨選擇を行ひ、在位年數も、王朝の區分も施してない。それ故、板によつて屢々系列を異にするが如き有様である。

(四) チュートリン博物館所藏の系譜(パピルスに記さる)。(これは年代學の研究上最も貴重なる資料であつて、第一王朝からラメセス二世に至るまでの總ての王の名前を掲げてゐる。發見當時は完全なるもの

であつて、輸送の途次毀損されたが、今日尙三百葉は利用することが出来る。其等のバビルスには各王の在位年數が詳細に記され、各グループの終には赤インクを以つて總計まで示してある。^(七)

以上の如く推測法の基礎となるべき諸種の資料があるのであるが、孰れも甚だしく不完全なるものであつて、此等をそのまま利用することは誤謬に陥り容い。例へば第十二王朝に於ては、父子二人が同時に王位に在るといふが如き習慣が行はれて居たのであつて、古代の系譜作者は第十二王朝の諸王の在位年數を計算するに當つて、父子別々に在位年數を計算したならば、第十二王朝の諸王の在位年數の總計は事實よりも甚しく長いものとなるのである。右に擧げたる資料中最も貴重なるものと見做されるチュートリン・バビルスさへ、記録者の任意の取捨が取り行はれて居り、且つまた計算の誤すら發見されるのである。その顯著なる例は第六王朝のペピ一世の在位年數であつて、チュートリン・バビルスはこれを二十年としてゐるのであるが、他の資料によつて五十年位在位したことが確實であるが如きである。

以上述べたる天文學的計算と記録的資料によつて吾人は古代埃及の年代を甚だ不完全ながら推定することが出来るが、この他に、ナイル河沿岸とその近隣に於て同一時期に發生した歴史的な事件を對比することによつても亦年代推定の一助となすことが出来る。例へばハムラビ帝國を破滅させたカシットの侵略がヘラクレオポリス王朝下のデルタ地方に對するヒクソスの侵入と略同一時代であつた如きである。^(九)

扱て以上の方法によつて現代の諸埃及學者が如何に古代埃及の年代を再建してゐるかに就いて述べて見やう。既に屢々述べたる如く、諸學者の説は區々に別れて容易に一致を見ないが、其等は第十八王朝を分岐點として、この王朝より昔に溯るに従つて諸家の説は懸隔を大にし、第十八王朝より降るに従つて諸説は接近して來るのである。それは云ふ迄もなく第十八王朝以後は年代を決定するに有效なる資料が豊富な爲であつて、それと反對に第十八王朝以前の時代は昔に溯るに従つて益々資料が缺乏する爲である。然らば先づ第十八王朝の年代は如何にと云ふに、シカゴ大學教授ブレスト博士は彼の名著「埃及史」A History of Egypt に於て「近年の發見から得た總ゆる最新の紀年を採用すると、第十八王朝の開始から紀元前五二五年ペルシャ人の征服まで、歴代の埃及王は合計して少くとも約一〇五二年間統治したことが數學的に確實である。其故第十八王朝は紀元前一五七七年よりおそく始まることはない。天文學的計算は（上記の推測法とは別に）變化し易い埃及曆に明瞭に天狼星が登昇した日と新月の現はれた日とに基いて、第十八王朝の開始を正確に紀元前一五八〇年とするのである。」^(十)と述べて、第十八王朝の開始を紀元前一五八〇年と決定的に斷定して居り、ケムブリッジ古代史第一卷中の「年代學」の著者スタンレー・クック博士も亦一五八〇年説を採用してゐる。^(十一)更にエドヴァルド・マイヤー博士も亦第十八王朝の開始を一五八〇年としてゐる。^(十二)而してコレヂ・ド・フランスのモレエ教授も亦第十八王朝の開始を一五八〇年としてゐる。^(十三)斯の如く權威ある諸學者の説が第十八王朝の開始に就いては殆ど悉く一致し

てゐるのであるが、それより溯つて第十二王朝に就いて見るに、ブレステド、マイヤー、モレエ等は孰れも第十二王朝の開始を紀元前二〇〇〇年としてゐるが、スタンレー・クックは同王朝の開始を紀元前二二二二年とし、終了を紀元前二〇〇〇年としてゐる。第十二王朝の年限が二一三年であることはブレステド、マイヤー、クック等が一致して居り、モレエのみは二一六年として居る。其故ブレステドとマイヤーは同王朝の終了を紀元前一七八八年としてゐるに對して、モレエは紀元前一七八五年としてゐるのである。第十二王朝の開始を紀元前二〇〇〇年となす説はカフンに於て發見されたパピルスにセソストリス三世（第十二王朝第五代の王）の第七年第八月第一日に天狼星が日出と同時に登昇したを記されてあり、これを前述の天文學的計算によつて算出すれば紀元前一八七六年又は一八七二年となり、前者を採用してこれに記録による諸王の在位年數を加算すれば同王朝の開始は紀元前二〇〇〇年といふことになる。これに對して王朝の開始を紀元前二二二二年となすクックの主張は如何といふに、若し此の王朝の結末を紀元前一七八八年とすれば、それから第十八王朝の開始即ち紀元前一五八〇年迄に僅か二百年足らずの短期間しか残されないことになり、その間に五箇の王朝とヒクソス時代とが存在するには餘りに短期間に過ぎるといふにある。^(十四)第十二王朝だけに就いて見るもその繼續期間が二百年以上であることよりすれば、かゝる疑問は一應考慮すべきではあるまいか。それに就いてクックは本來の星の觀測に誤謬があつたか或はセソストリス三世から第十八王朝の開始に至るまでの間に、曆の上に吾々の知るを

得ない何等かの變化が加へられたに相違ないとしてゐる。^(十五)然し、彼のこの説が單なる想像以上の何ものでもないことは彼自身認めてゐるところである。兎に角第十二王朝の終了から第十八王朝の開始に至るまでの時代は現在のところ年代を構成すべき資料が甚だしく缺乏して居るのである。

この時代より更に溯つて第九第十の兩王朝即ちヘラクレオポリス王朝時代と呼ぶ時代に至るに及んで、吾々は古代埃及の年代再建上の一大暗礁に逢着するのである。この王朝に在つては十八人の王の在位したことは略々確實であるが、其等の諸王の在位年數は全く不明である。これに對してプレステド教授は「東洋に於て整頓した状態の下に於ける公平なる平均年限である十六年の期間を夫々の王に與へるならば彼等は二八八年間君臨したことになる」と^(十六)て、この期間を二八五年間と見積つてゐる。斯の如き根據なき一片の想像にしか過ぎないことが歴史研究上最も重要事項の一つたる年代の研究に、果して許さるべきものであるか否かは別として、プレステドの如き權威ある學者が敢てこの舉に出でたるには、よくよく資料の缺乏に窮した結果と見るべきである。彼自身もかゝる推定は孰れにしても百年位の誤謬を生ずるかも知れないと斷つてゐる。この時代が單なる想像に頼らねばならぬ結果、その影響の及ぶ範圍は甚だ廣範であつて、遂ひには第一王朝の開始にまで及ぶのである。

スタンレー・クックによれば、第九、第十兩王朝即ちヘラクレオポリス朝の諸王が第七、第八兩王朝即ちメンフィス朝末期の諸王と同一時代であつたか否かは判明しない。埃及の公式の系譜では第七、第八

及び第十一王朝末期の諸王を正統と認めてゐるが、ヘラクレオポリス朝は認めてゐない。それ故、第八王朝最後の王が、北方に於て、テーベ朝の下に兩王國を統一した第十一王朝の王（ネブハプトル Nebsa-peho）と直ちに連絡するものか或はヘラクレオポリス家の諸王がその間に介在するかは不明であると述べてゐる。^{（十七）}要するにヘラクレオポリス朝に十八人の王があつたことは略確實であるが、問題は此等十八人の王が悉く埃及全土に君臨したかどうかであつて、スタンレー・クックはその中の幾人かが埃及全土に君臨したとすることの方が一層の可能性を持つと述べてゐる。而して彼の掲ぐる年表によれば、第八王朝の終了を紀元前二四〇〇年（ブレストドは二四四五年とす）とし第十一王朝の開始を紀元前三二七五年としてゐるから、彼が第九、第十王朝に割當ててゐる年數は僅か二十五年に過ぎないのである。これをブレストドの二百八十五年と比較すればその差は餘りにも大である。他方、モレエはこの二王朝の期間に對して二百年を與へてゐる。即ち第九王朝の開始から第十王朝の終了までを紀元前三三六〇——二二六〇年としてゐる。

扱て斯の如く古王國時代（第三—八王朝）から中王國時代（第十一—十八王朝）に移る所謂轉換期とも稱すべき時代の年代が資料の缺乏のため甚だしく不明であるため、その影響は其以前の時代にとこまでも付きまといひ、従つて諸家の意見が相違を來す結果となる。然し古王國時代の資料と古代の系圖とに基いてなされた諸家の研究の結果は、古王國各王朝の繼續期間の推定が、資料の取扱方によつて多少の

相違はあるが、略々接近するやうになつて來る。

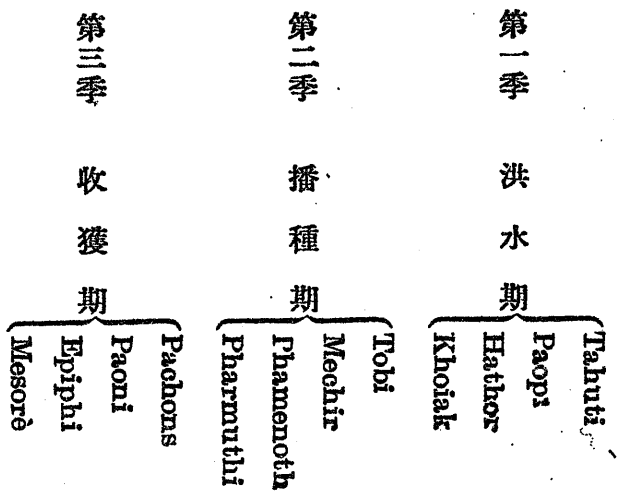
斯くて第一王朝の開始年代に關する上掲諸家の推定はブレステドの紀元前三四〇〇年を中心として百年以上の開きを見せてゐない。即ちマイヤーは紀元前三三一五年とし、モレエも亦紀元前三三一五年とし、クックは紀元前三五〇〇年としてゐる。

これを要するに古代埃及の年代は今日未だ諸家の間に定説を爲さず、甚だしきは或る時代に對しては、獨斷的想像すら加へられてゐる有様である。古代埃及の年代が確定的なものとなるまでには尙幾多の資料の發見と研究に俟たなければならぬのである。尙余は本文を草するに當つて埃及學の權威たるペトリー *Petrie* 及びバッヂ *Budge* の用ゐてゐる年代に言及しなかつたのであるが、その理由はペトリーの年代例へば第一王朝の開始を紀元前五五一〇年となすが如き長期説は一般に顧られなくなつたがためであり、バッヂは近年の發見に基いて多少の修正を加へたのみで、大體に於てブルグッシュ *Burgess* の年代をそのまゝ採用してゐるがためである。而してブルグッシュも亦マネットオ *Mannetho* の年代を過信し過ぎた嫌ひがあるのであつて、従つて彼の採用した年代も亦長期で、例へば第一王朝の開始を紀元前四四〇〇年となしてゐるが如きである。

1 *Lepsius, Denkmäler, Ab. III. Bl. 227.*

1 *Ibid, 171*

三 古代埃及人は一年を左の如く分つた。



四 H. R. Hall, *The Ancient History of the Near East*, P. 19.

五 H. R. Hall, *The Ancient History of the Near East*, P. 19-20.

六 Breasted, *A History of Egypt*, P. 23.

七 シンギはチエーリン・パピヌスは甚しく無價値なることを示す。E. A. Wallis Budge, *A History of Egypt*, vol. 1, p. 114ff.

八 例へばアメンムハット一世の第三十年は同時にその子のセンストリス一世の第十年に相當し。センストリス一世の第四十五年はその子のアメンムハット二世の第三年であつた。

九 A. Moret, *Le Nil et la civilisation égyptienne*, P. 25-26.

古代埃及の年代に就て (恒松)

- 十 Breasted, A History of Egypt, P. 22.
- 十一 The Cambridge Ancient History, vol. 1., P. 166ff.
- 十二 Eduard Meyer, Geschichte des Altertums 1. Bd., 2 Hälfte s. 17.
- 十三 A. Moret, Le Nil et la civilisation égyptienne, P. 27.
- 十四 The Cambridge Ancient History, vol. 1., P. 168-169.
- 十五 Ibid.
- 十六 Breasted, A History of Egypt, P. 22.
- 十七 Cambridge Ancient History, vol. 1. P. 170-171